

No.188

令和2年10月2日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



気がつけば、10月。

朝、通用門で立哨指導のかたわら、登校してくる生徒たちと挨拶を交わしているときのことです。ついこのあいだまで、日差しを避けるようにして日陰を求めてポジション取りをしていたのに、最近はぬくもりを感じることでできる日向を求めるようになっていました。日中はまだまだ暑さを感じるものの、急激に秋が進行していることを実感します。

気がつけば、10月。これからますます秋めいてくることでしょう。実りの秋、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋……。秋は何をするにも適した季節だということなんでしょうね。

さて、10月の和風月名(異名)は「神無月」(かんなづき)といいます。なぜ神無月というのでしょうか。その由来を調べてみました。

神無月は「かんなづき、かむなづき、かみなしづき」と読み、その意味・由来・語源には、正反対のものを含めた諸説があります。

有力だとされている説は「神無月(かんなづき)」の「無(な)」が「の」にあたる連体助詞だとするもの。神無月は「神の月」となり、神を祀る月であることを意味します。神がいない月なのではなく、神の月だという解釈ですね。

一方ではこの月、全国の神々が出雲大社に集まり、諸國に神がいなくなるという説もあります。このため、出雲大社のある出雲国・現在の島根県では、現在でもこの月を「神在月・神有月(かみありづき)」と呼ぶ風習が残っています。この場合、出雲以外では神様が出かけてしまって不在となるため、文字どおり「神無月」であるという説もあります。

ほかに、雷の鳴らない月である「雷無月(かみなしづき)」が転じたという説、新穀で酒を醸造する月である「醸成月(かみなしづき)」が転じたという説もあります。

八百万の神々は神無月に出雲大社へ集まって、何をしているのでしょうか。出雲大社といえば「縁結び」。どんなご縁を結ばせるか、神様が集まって会議を開いているといわれています。

ここでいう「ご縁」とは恋愛や結婚だけにとどまらず、仕事のご縁、翌年の天候や農作物の収穫などまで多岐にわたるのだとか。このため、出雲大社では陰暦の神無月にあわせ「神迎神事」「神在祭」など、数多くの神事が行われています。

引用：<https://boxil.jp/>

名月や池をめぐりて夜もすがら 松尾芭蕉

さて、昨日10月1日は「中秋の名月」でした。ご覧になったかたも多かったのではないのでしょうか。夕食後、ルーティーンではない散歩に出かけました。もちろん名月を愛でるためです。蒼白く煌煌と輝く名月を眺めながら、悠久の時間の経過に想いを馳せました。「夜もすがら」とはいきませんでした。気がつけば自宅からかなり遠くまで来てしまっていました。

「見逃したあっ！」と言われる方、大丈夫です。今夜は十六夜いざよいです。「十六夜は十五夜の月よりも美しい」と言われるかたもいらっしやるほどです。今晚も天気は上々、お月見には最適だと思われます。ぜひご覧あれ。

十六夜もまだ更科の郡かな 松尾芭蕉

